

第 11 回 和歌山県弥生・古墳時代研究会の報告

開催日時：平成 25 年 2 月 24 日（日）13:30～16:00

開催場所：和歌山県立紀伊風土記の丘（和歌山市岩橋 1411 番地）

研究会の発表内容：

「大日山 35 号墳出土の器財埴輪・須恵器の検討」仲原知之（紀伊風土記の丘）

現在大日山 35 号墳の出土遺物について、今年度末に報告書を刊行するために整理作業を継続中です。前回までに人物埴輪、動物埴輪、家形埴輪を検討し、今回は器財埴輪および造出出土の須恵器を検討します。

大日山 35 号墳の器財埴輪は、東造出から大刀形埴輪 1 個体以上とゆぎ形埴輪の破片が出土し、西造出からはころく形埴輪 2 個体、ゆぎ形埴輪 1 個体が出土しています。

須恵器については、東造出からは大甕のほか、壺、瓶類、高杯、器台が出土し、西造出からは大甕のほか、壺、高杯、器台、杯身、杯蓋、高杯蓋、装飾付須恵器に取り付く小壺が出土しています。また西造出からは土師器の高杯や壺なども出土しています。

参加者：（敬称略）＜発表者 1 名 + 5 名 計 6 名＞

＜発表者＞仲原知之（紀伊風土記の丘）

＜参加者＞河内一浩（羽曳野市教委）、松田 度（大淀町教育委員会）、
花熊祐基（龍谷大学）、
（以下風土記の丘ボランティア）木村 健、鳥居千純

【参加者のコメント・質疑応答】

<東造出の器財埴輪>

仲原 : 大刀形埴輪の護拳部や柄部など1個体分の破片があります。盾状の鱗部と推測できる破片から2個体以上あったことがうかがえます。ゆぎ形埴輪は少なくとも1個体あります。大刀形埴輪の鱗部もしくはゆぎ形埴輪の破片が出土していますが、両者は文様や形状は似ており、破片では峻別できない状況です。この他、円柱状の不明形象埴輪や力士の髷のような破片が器財埴輪の可能性もあるかもしれません。

仲原 : この中に盾の破片が含まれる可能性ありますか。

河内 : いずれも大刀やゆぎの破片と思われ、盾と思われる破片はないと思います。

松田 : 文様構成などからいってもいずれもゆぎや大刀でいいのではないのでしょうか。

仲原 : 大刀形埴輪については、鞘部に他の形象埴輪ではあまり見ることができない細い線刻と小さな3条刺突文が施されています。盾状の鱗の破片にはこのような工具での文様がないので、普通に考えれば別個体と考えられそうです。ただ西造出のころく形埴輪には1個体に別の工具を用いた刺突文が施されたものがあり、1個体でも施文場所によって工具が違っている場合(複数の工人が作っている)もあります。

仲原 : 大刀の柄の部分についてはこのような形態のものはあるのでしょうか。護拳部を貼り付ける際の刻みがつけてあります。

花熊 : 今城塚古墳では複数の大刀形埴輪が出土していますが、似たようなものはありません。

仲原 : 井辺八幡山古墳では大刀形埴輪は出ていませんでしたよね。

松田 : 大刀形埴輪は出土していません。

河内 : 大谷山22号墳では護拳部が複数出土していますが、それに取り付く本体は出土していません。

仲原 : 類例はないのかもしれませんが、他の器種を思いつかないで大刀の可能性が高いと考えておきたいと思います。

仲原 : 力士の髷状の破片についてはいかがでしょう。

河内 : 力士の髷の大きさですが、線刻が入っており、線刻のある力士の髷が記憶にないので、力士というのは難しいかもしれません。ただ器財埴輪のどこかに取り付くかと考えても類例は思いつきません。

花熊 : 今城塚古墳の力士にも線刻はなかったと思います。

松田 : 井辺八幡山古墳でも力士の髷と考えられるものが出土していますが、線刻はありません。

仲原 : それではこの個体につきましては、力士の可能性も考えつつ、他の埴

輪に取り付くかどうか検討していきたいと思います。

仲原 : 円柱状の破片については、松田さんははじめて見ると思いますので、何だと思われますか。

松田 : 鶏を含めた鳥が一番近いのではないかと思います。よくわからない破片です。

仲原 : これまで何人かの方に見ていただいて、いずれの方もよくわからないということですので、報告書では不明形象埴輪として扱っておいて、今後類例を探していきたいと思います。

仲原 : ゆぎまたは大刀の破片の中に帯状のものが貼り付けられた個体がありますが、ゆぎ、大刀、盾と考えるか、人物の服装と考えるか、いかがでしょう。

河内 : 器財で帯状のものを貼り付けると考えるよりは、巫女の袈裟状衣の帯と考える方が妥当と思います。ただ、そうした場合、線刻の他に刺突文で施文しており、このあたりが難点になると思います。

仲原 : 大日山 35 号墳では線刻で施文した袈裟状衣がありますが、刺突文が施されたものはありません。刺突文以外は巫女でもいいのかとは思いますが。ゆぎや大刀の可能性のある破片の中でも少しいい個体については、巫女の袈裟状衣の可能性も考えていきたいと思います。

仲原 : これ以外の不明形象埴輪の中に器財埴輪の可能性のあるものはありますか。

松田 : 不明形象埴輪の中には文様のにも形態的にも器財埴輪と思われるものはないので、家形埴輪の一部と考えていいのではないのでしょうか。

<西造出の器財埴輪>

仲原 : 西造出ではころく形埴輪 2 個体とゆぎ形埴輪 1 個体が出土しています。ほかには器財埴輪と思われるものは確認できていません。ころく形埴輪については、矢の線刻など全体的には同じ形状ですが、矢筒の部分が若干違った形態をしています。先ほども言いましたが、全体を復元しなかった方の個体では、2 種類の刺突文が見られます。この他に器財埴輪と思われるものはありましたか。

松田 : 器財埴輪と考えられるものはありません。東造出同様によくわからない不明形象埴輪のうち平らな部分を残すものは、多くが家形埴輪の一部ではないのでしょうか。

仲原 : そうすれば西造出でも盾形埴輪はなかったことになるのでしょうか。

花熊 : 今城塚古墳では盾形埴輪は出土していますが、他の器財埴輪に比べると数は非常に少なくなっています。

松田 : ころく形埴輪をはじめとする樹立場所についてはわかっていますか。

仲原 : 東造出、西造出ともにいえることですが、ほとんど樹立場所がわかるものはありません。確実に原位置がわかるものは西造出の馬と東西造出の大甕くらいです。家形埴輪が裏返しで出土するなど、人為的に動かされたことも想定してもいい状況です。ただそれぞれの個体については、犬や猪、牛などが同じ地点から出土するなど、まとまりがあるような出土状況ですので、ある程度樹立していたところに近いところから出土した可能性が高いと思っています。器財埴輪については、造出の中央部ではなくて、方形区画の円筒埴輪列に近い周辺部で出土する傾向にあるようです。

松田 : 井辺八幡山古墳では、家形埴輪の屋根部分だけがひっくり返った状態で出土するなど、少し不可解な現象が認められます。宝塚1号墳では、報告書ではあまり触れられていませんが、船1号は完形のまま出土していますが、船2号は円筒埴輪の中に片付けられたような形で出土しています。この円筒埴輪もどこかから抜き取ったものを使用している可能性があります。このように立証することは難しいですが人為的に片付けられた可能性を示す事例はあるので、そういう目で見えていくことも必要なのかなと思います。

<造出出土の須恵器>

仲原 : 東造出から原位置で出土した大甕1個体のほかはいずれも破片で、壺1点、壺または提瓶1点、高杯1点、器台12点出土しています。一部に造出より墳丘側のテラスや2段目斜面から出土したものもあり、墳頂部やテラスに置かれていた須恵器が含まれる可能性があります。

西造出からは原位置で出土した大甕2個体のほか、甕2点、壺1点、高杯21点、器台5点、杯身3点、杯蓋6点、高杯蓋4点、装飾付須恵器の小壺2点が出土しています。杯身および杯蓋の中には高杯の身と蓋になるものが含まれると思われ、高杯の出土点数が非常に多いことがわかります。一部に造出より墳丘側のテラス部分から甕や器台などが出土しています。西造出からは高杯などの土師器も出土しています。

河内 : 小壺ですが、透かしが入っているのは類例を知らないので調べておきます。

松田 : 子持ち壺というよりは、井辺八幡山古墳のような装飾付の器台取り付く小壺になるのではないのでしょうか。いずれにしても類例が思い浮かばない珍しいものになると思います。

松田 : 最近井辺八幡山古墳の須恵器について再検討ははじめたばかりですが、3つの産地の須恵器があるのではないかと考えています。1つは陶邑で、もうひとつは桜井谷など吹田市近辺のもの、もうひとつは焼きが

あまいものがあります。大日山 35 号墳でも複数の産地を考えるべきだと思いますが、陶邑と思われるものが少ないように思います。

仲原 : 大日山 35 号墳では高杯、器台が多く出土していますが、井辺八幡山古墳でもそのような状況がありますか。

松田 : 井辺八幡山古墳では西造出から高杯は 30 個体以上出土していると思います。西造出ではその他の器種も多く出土しており、東造出では大甕以外の小形器種は少ない状況で、大日山 35 号墳と似た状況です。

仲原 : 大日山 35 号墳でも東造出より西造出の方が須恵器が多く出土しています。

松田 : 西造出での配置状況は私がいうところの対面儀礼の場で、そこに須恵器が多く使われている状況です。

仲原 : 井辺八幡山古墳の状況をお聞きすると造出の状況は非常に似ているのではないかと思います。大日山 35 号墳では西造出で須恵器が多く、動物埴輪は馬と翼を広げた鳥形埴輪以外が出土していません。逆に東造出では須恵器が少なく、犬、猪、牛などの動物埴輪があつて、狩猟の場面が作られています。

<まとめ>

仲原 : 器財埴輪については、東造出で大刀形埴輪 2 個体、ゆぎ形埴輪 1 個体が確認でき、西造出ではころく形埴輪 2 個体、ゆぎ形埴輪 1 個体が確認できました。破片の分析によってはこれ以上の個体数になる可能性もありますが、いずれにしても器財埴輪の個体数はそれほど多くないことがわかりました。観察した結果、盾の可能性のある破片は確認できませんでした。

須恵器については、東西の造出で須恵器が出土しており、西造出では土師器も出土しています。特に西造出からは高杯を中心とした多くの須恵器が出土し、井辺八幡山古墳の出土状況と類似した様相を示す可能性があります。